

平成23年度プレストレストコンクリート技術協会賞（論文部門）を受賞！

李春鶴助教

平成24年5月16日に行われた、公益社団法人プレストレストコンクリート工学会第53回通常総会において、李春鶴助教、山口光俊（OB、現富士ピー・エス）様、辻幸和（現前橋工科大学学長、群馬大学名誉教授）様が平成23年度（第39回）プレストレストコンクリート技術協会賞論文部門（論文賞）を受賞した。李助教は、平成21年度の実績以来の二度目の受賞である。

本賞は、プレストレストコンクリート技術協会機関誌、プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集、本協会の各種刊行物に発表された研究論文、工事記録等について、応募および選考委員より推薦された中から選定したもので、研究内容および成果がきわめて優れたものであり、プレストレストコンクリート(PC)技術の進歩と発展に著しい貢献をされ、PC技術を用いた構造物の将来の方向を示すとともに、社会基盤施設の形成に大きく寄与するものと認められたのである。本年度受賞は、論文部門3件、作品部門6件、技術開発部門2件、施工技術部門4件の計15件である。

今回の受賞の対象になった研究のタイトルは、「鉛直打継ぎ目を有するPPC梁の力学的性状に関する基礎研究」を総合題目とした研究で、協会誌第52巻3号、53巻1号に投稿した関連論文が受賞対象である。両論文ともにPC橋梁の長大化と高強度化のニーズに合わせた実験的研究で、張出し施工では避けられない鉛直打継ぎ目とPC橋梁の性能向上を図るためのコンクリートの高強度化に関して、工学的に非常に有意義な研究結果を報告している。その結果、PPC梁の力学的性状に及ぼす要因は、多岐にわたることが明らかになり、PPC梁はRC梁とPC梁の中間的な位置付けにおいてもいずれに近いかによって、異なる曲げ性状およびせん断性状を示すことを定量的に明らかにしている。また、このような研究結果は、PC橋梁やPPC橋梁の実務的な設計と施工に有用な知見を提示しており、プレストレストコンクリート工学の進歩に大きく寄与していると高く評価された。



授賞式の写真

（真中が李春鶴、その右から山口光俊、辻幸和）